



南地区で開催された一風堂ラーメンボランティア(7面に関連記事)

「旭川荘総研」は「創研」であらねば

理事長 末光 茂

10月2日、元あかしや園ならびに前パンビの家の跡地に瀟洒な木造の建物、「旭川荘総合研究所」が完成しました。モデルはアメリカのハーバード大学の学長公舎であった建物です。

昭和34年「旭川荘児童福祉研究所」が、知的障害児を対象とした自由契約施設「あかしや園」とともに開設されて54年。江草安彦名誉理事長のたぐいまれな先見性と障害児本位の実践に、大きな信頼を寄せる全国各地のご家族が、知的障害のあるわが子を託されました。法律にない新しい取り組みを先駆的にスタートさせるのに合わせて、科学性を確保するための研究活動が並行して展開されることになったのです。

23年後の昭和57年には「医療福祉研究所」と名を改め、より広い視野での研究に取り組むことになりました。研究成果を国内外の学会で発表するとともに、「旭川荘研究年報」を定期刊行し、さらには「旭川荘医療福祉学会」や「療育研修会」等を主導してきました。それは「旭川荘厚生専門学院」「川崎医療福祉大学」へとつながりました。

今回「旭川荘総合研究所」と名を改め、自前の建物を用意できたのは感慨ひとしおです。「三菱総研」や「野村総研」など全国に総合研究所はたくさんありますが、福祉界には見当たりません。

まず「旭川荘総研」は、創造的成果を世に問うことのできる「創研」でありたい。創造的というとは、ゼロから全く新たなものかと思いがちですが、日々の小さな変化へのまなざしにこそ、創造への気づきがあると言われます。

一方、狭い世界で視野狭窄になることのないよう地球規模での情報交換、発信を通じて「福祉界のシンクタンク」たるべく、「英知」と「技」の結集に努める所存です。

私は最近、健康の不調を発見し、精密検査をしていたために病院でお世話になった。いわゆる医療・福祉サービスを受ける側になったのである。病院では患者はすべて受け身ではない。患者も主体的であり、納得いくかたちで医療福祉サービスを提供される筈である。つまり、病院と患者との間には信頼を基にした「良い関係」が必要である。この関係がなければ医療の満足度は低くなる。

今回の私の入院は、きわめて満足する状態であった。高い満足度を全身で感じた。病院の医療、看護の技術レベルは高く、専門職の連携は驚くほど緊密であった。医師のこまやかな診療と説明、看護師の行き届いた心遣いに十分に満足した。放射線技師の方の対応、ハウスキーピングのサービスも満点であった。

こうしたなかで川崎学園の創立者川崎祐宣先生を思うことがしきりにあった。先生は、病院は医療人のためのもので

はなく患者のためにあるとおっしゃり続けておられた。この先生の思想が今日も川崎医科大学の病院では脈々と続いていることがわかった。

福祉においても同様であるべきであろう。旭川荘は職員のためにあるのではなく利用者のためであると言うべきであろう。利用者満足を目指した旭川荘が約60年前に創設された時、川崎先生の理想主義によって肢体不自由児施設、知的障害児施設、乳児院の三施設をわが国の先進施設だけでなく海外の施設を十二分に研究して設計した。ゆつたりとした生活空間と、最新の設備を整えたのである。それだけに当時の日本の福祉施設のレベルをはるかに超えたものであった。海外からの視察も多数。WHOからも視察団が来荘されるほどであった。

このすばらしい旭川荘についての評価はさまざまであった。その一つに岡山の生活レベルから見ると立派すぎるとおっしゃった方もあった。県

民の生活レベルで比べると、もっと粗末でもよいのではないかということであろうか。この意見に対し川崎先生は立派すぎるとおっしゃるが、近いうちに日本はこのレベルのものが当たり前だと言えるように旭川荘はすべきだとおっしゃった。満足度には、これでよいというものはない。限りなく高めるべきということであった。「病院は患者のた



利用者の笑顔のために(写真はイメージです)

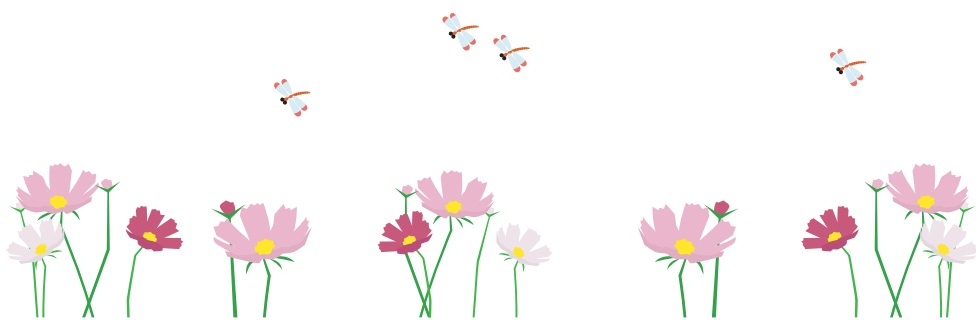
めにある」と同様に「社会福祉施設も利用者のためにある」。旭川荘の満足度はどうだろうか。

教育の現場も同様である。私が川崎医療福祉大学で学長をつとめていた時、学生の満足度を調べた。この調査にくりわしい岡山大学医学部での経験者である緒方教授を中心に実施した。大学にとっても、学生、教師、事務職員にとっても頭が痛いこともあった。

しかし、それらを検討し、改善することが、大学教育の充実に通じるのであった。

今から約10年前に旭川荘は改築によって大きく変化した。創立50年ということもあったし、社会福祉施設の改革をめざしていたこともあり、その一つとしてサービスセンターを創った。旭川荘内部の連携はもちろんであるが、見学、訪問のみなさんとの対応を堅い管理的なものにしないで敷居を低くし、すべて「サービス精神」にみたまされた旭川荘となるためにサービスセンタ

ーを創ったのである。サービスの語源のセルビスは、神への奉仕である。その目的は達成されているのだろうか。



旭川荘総合研究所竣工式を開催

10月2日、「旭川荘総合研究所」の竣工式が開催されました。旭川荘では、昭和33年に児童福祉研究所（昭和57年に「医療福祉研究所」へ改称）を設立し、平成8年にはアジア福祉文化研究センターを開設するなど、創立当初から実践に基づく研究活動を重視してきました。



竣工式でのテープカット

総合研究所は、少子高齢化やグローバル化の進展に伴う課題に総合的に寄与するため、医療福祉研究所にアジア福祉文化研究センターを統合して4月に設立。このたび新築された建物はあかしや園の北隣に位置し、面積約180㎡、

木造平屋建てで、所長室、会議室、研究室6室、書庫などが置かれています。

竣工式には旭川荘の役職員のほか、家族会や地域の町内会の代表など約50人が参加。江草名誉理事長は挨拶で、米国のハーバード大学にある歴史学長のオフィス兼住宅であった建物を参考として黄色い壁の木造建築とし、旭川荘の英知を集める象徴としたことを紹介しました。また、初代研究所長となる末光理事長は、この場所は旭川荘の研究活動の聖地であり、福祉界におけるシンクタンクを目指したいと意気込みを述べました。

研究所には旭川荘療育・医療センターの小田滋顧問をはじめとする4名の「特別研究員」もお迎えし、本格的に活動を開始します。



総合研究所の外観

上海市から研修団来荘

JICA（独立行政法人国際協力機構）の支援で実施している「上海医療福祉関係人材養成事業」は3年計画のプロジェクトですが、今年は3年目の最後の年になります。

第1次研修団は上海市民政局、上海市黄浦区民政局および上海市黄浦区衛生局の方々が昨年同様20名で高齢者事業の運営管理と介護の現場指導の研修を目的として平成25年10月14日から25日まで来日さ

れました。

第2次研修団は浦東新区10名、上海市民政局14名の障害児教育担当者が、11月11日から22日まで来荘、続いて上海市黄浦区衛生局から医師6人が高齢者・障害者の医療関係の研修に11月25日から一週間の日程で来荘される予定です。このプロジェクトでは3年間に108人の方が、研修を修了することになります。

上海市の高齢者福祉・障害

寄付をいただきました

7月に亡くなられた中島保・旭川荘友の会前会長（ナカシマホールディングス名誉会長）のご遺族より9月3日、旭川荘へ香典の一部35万円の寄付をいただきました。

中島前会長の長男で、ナカシマホールディングスの中島善平代表取締役社長が来荘。中島家を代表して、末光理事長へ寄付金を手渡しました。

中島前会長が平成7年にナカシマプロペラ社員と始めた旭

川荘の清掃ボランティアは、岡山南ロータリークラブ会員、関連企業にも広がり、春秋の活動として定着。自ら先頭に立つて植栽の剪定に汗を流すなど、温かな支援をいただきました。

中島社長は「（父は）常々『社会貢献をしなければならぬ』と話し、旭川荘での活動に深い思いを持っていた。本人も（寄付を）喜んでくれることでしょう」と語り、末光理事長は「いろいろな面でお世話になった方。

者福祉に旭川荘での研修の成果を上海市の実情に合わせて昇華し、反映していただきたいと願っております。



開講式に臨む第1次研修団の皆さん

ご遺志を継いで、障害者のために活用したい」と御礼を述べました。



末光理事長に寄付を手渡す中島社長（左）

旭川荘療育・医療センター 歯科、脳波検査室など移転

新棟1期工事完成



旭川荘療育・医療センターの中核施設となる新棟（総合外来棟）の1期工事が10月15日までに完成。児童院の歯科や脳波検査が同月30日より新たな場所ですタートしていません。併せて、近く解体する療育園・睦学園本館棟の機能を児童院に移すなど、2期工事に向けた準備も着々と進んでいます。どの部署がどこへ移り、どう「進化」したのか。建設会社との調整を担当する療育・医療センターの藤堂博之副院長に聞きました。



天井走行リフトを備えた歯科診察室

「レントゲン撮影のために岡山大学病院を受診してもらおうなど迷惑をおかけしていた。今後は幅広い診療ニーズに対応できる」と藤堂副院長。待合室も広くなり、待ち時間を快適に過ごせます。

今回、外来利用者の利便性が大きく向上したのは、児童院1号棟3階の仮設外来から新棟4階に移転した障害者歯科。診察台は2台から4台に増え、新たに天井走行リフトを備えました。身体に重い障害のある患者さんの場合、車いすから診察台へ移るのに本人も介護者も大きな負担を強いられていましたが、リフトが診察台への昇降をサポートしてくれそうです。また、仮設外来が狭く設置できなかったレントゲン装置も倉庫から復活。



脳波と患者さんの様子を同時に確認できるモニター

同じく新棟4階に移った脳波検査室（3室）は従来よりスペースを広めに確保。防音設備も整い、静かな環境で検査が行えます。最新のデジタル脳波計を1台追加し、3室すべてにテレビカメラを完備。波形と患者さんの状態を同時に診ることができるようになり、より詳しい検査が可能になります。



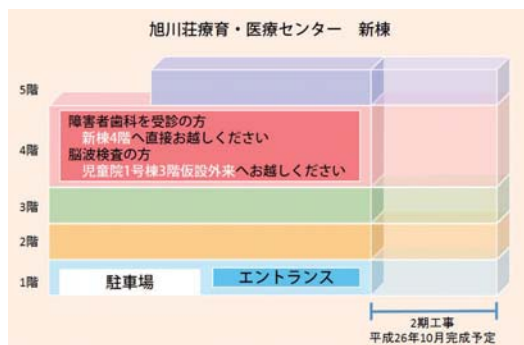
雨天でも濡れずに乗降できる駐車場

ることなく乗降できます。特に歯科のみを受診する場合は児童院の受付を通る必要はなく、新棟のエントランスからエレベーターで4階に上がれるため、アクセスがより便利に。新棟と児童院3号棟の2、3階は渡り廊下でつながり、他の診療科にもスムーズに移動できます。

このほか、新棟4階の生化学検査室には、今回の移転を機に生化学自動分析機を一新。精度アップや検査時間の短縮はもちろん、以前より少量の検体（血液）で検査ができるため、採血を受ける患者さんの負担も軽減されます。

一方、療育園・睦学園の看護課、支援課、総務課は児童院関連各課の部屋へ引っ越し、療育園・睦学園と児童院で別々にあった配膳室は新棟3階に集約。療育園・睦学園の家族会は児童院1号棟1階の家族会室へ移ります。

新棟2期工事は26年始めに着工、11月に完成の予定です。藤堂副院長は「新棟の完成・オープンに向けて、関連部署の職員同士、積極的に意思疎通を図りたい」と話しています。

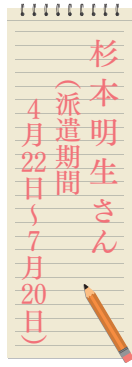


海外研修報告

睦学園・杉本さん、愛育寮・吉本さんに聞く



今年度、旭川荘から2人の職員が海外研修の機会に恵まれました。社会福祉法人清水基金海外研修事業で米国、デンマーク、英国を訪問した睦学園支援主任の杉本明生さんと、公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団海外研修でデンマーク、スウェーデン、オランダを訪れた愛育寮支援主任の吉本信介さん。それぞれに研修を振り返ってもらいました。



最も印象に残っているのは、米国C.I.L.(自立生活)運動発祥の地・パークレーのThrough the Looking Glassという障害者支援団体での研修。ソーシャルワーカーについて訪問した先は、情緒障害児を抱えた低所得世帯。育児の相談に始まり、肥満の母親にも

バランスに配慮した食事を作るよう指導したり、クーポンを使って安く食材を購入する方法などをアドバイスしていた。障害のある人だけでなく、家族の問題も含めてサポートするというスタンスだ。

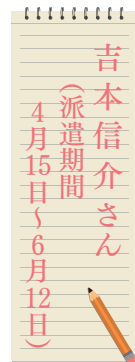
訪れたどの国も、日本以上に「障害者本人を中心とした支援」という考え方が強かった。各国には地域生活を送るためのさまざまなサービスがあり、本人が選択ができるが、決めることが難しい人もいる。研修先で出会った専門職らは

面談の際、丁寧に意見を聞き、否定はせずプロセスの中で軌道修正するなど、いい関係を築くことに心を砕いており、アプローチの仕方は勉強になった。障害特性への理解はもちろん、多様なニーズに対応できる幅広い知識、さらに相手の性格も含めて受け入れる、そんな人間の度量が求められる仕事だと痛感した。各国とも施設入所から地域

への移行が完了しているが、それぞれの文化、生活背景によってやり方が異なる。例えばデンマークのグループホームは個室にキッチン、バス、リビング、ベッドを備えた完全独立型だが、米国の個室はベッドだけで、その他は共同といったつくり。日本でも欧米にならって施設の小規模化、個室化という流れがあるが、日本の文化に合った福祉サービスとは何だろうか、改めて考えさせられた。



Through the Looking Glassのスタッフと一緒に(後列右端が杉本さん)



テーマは「知的障害者のセクシャリティ」。特に勉強になったのはデンマークでの研修だ。国が障害者の性についてのガイドラインを定め、自治体配属のセクシャルワーカーという専門職が相談に応じている。知的障害関係のスタッフを対象にした講習会も随時開かれていて、セクシャルワーカーから支援方法を聞く機会もあった。

日本の施設生活は男女分かれがちだが、デンマークで訪れたグループホームは障害があっても結婚したり、恋人だと公言するのはごく普通のこととで、周囲も温かく見守っていた。自己決定を尊重する意識も強い。例えば子どもが欲しいという場合、頭から否定せず、まず人形で養育体験をしてみよう。人形はランダム



オランダのグループホームで利用者、スタッフと写る吉本さん(左)

に泣く仕組みで「夜中に眠れない」という訴えもある。育児の大変さを本人が納得した上で、子どもを作るかどうかを選択する。自分で決めないといけないが、時間をかけて考えればいいと助言するなど、自己決定へのサポートは徹底していた。

オランダのAutismという民間組織が運営する「障害者のための大人の学校」も見学した。料理や美容などさまざまな講座が用意され、セクシャリティ教育の講座では、知的障害のある人が講師を務めることもある。就職支援というより、学びたいニーズに応えるもの。デンマークもそうだが、ここではだれもが学ぶために何回も学校をやり直すことができる。社会全体に「急がない文化」が根付いているから、障害者も自然に受け入れられているように感じた。



地域イベントで旭川荘製品PR

写真講座も開催



望の丘ワークセンターが参加。過去最多の約300種類、約2500点を並べて、利用者の活動をアピールしました。

また9月30日には、製品をよりよく見せるための撮影技術を学ぶ写真講座を、企画広報室の呼びかけで初開催。「ぎおんの杜から」の撮影を担当したカメラマン蜂谷秀人さんを迎え、各施設の製品担当者や広報委員会のメンバー20人が、デジタルカメラ

旭川荘の製品を地域に向けてPRする動きが活発化しています。前回の旭川荘だより(183号)ではサイト「ぎおんの杜から」のブログを活用した情報発信について紹介しましたが、今秋は岡山県やNPO、地元新聞社主催のイベントにも初参加しました。試食や試供品の提供、サンクスカードやオリジナルの包装材料を準備して、地域住民に広く「旭川荘ブランド」を知ってもらえるよう、さまざまな試みを展開しています。



交流会で製品をPRする企画広報室スタッフ

9月27日に岡山市内で開催された「農山村や暮らしとビジネスとの交流会」。中山間地域が抱える過疎・高齢化、耕作放棄などの課題に取り組む住民団体と、事業を通じて社会貢献をはかりたい事業者との交流を狙いに、県やNPO法人「岡山NPOセンター」などが初めて企画しました。高梁など中山間地域に事業展開する旭川荘も、企画広報室が中心になって製品紹介のブースを出展。ブースを訪れた人に、農業グループとの連携で生まれた「高梁紅茶サブレ」や、自家栽培の大豆から作った「おから茶」を試食・試飲してもらい、合わせて「木製地図パズル」や「結び織マット」などの「ハンドメイドの逸品」をPRしました。「つくりが良く、アイディアも面白い」「人にも勧めたい」など製品に対する評価は高く、「どこで買えるのか」「低価格で利益は出るのか」と

いった質問も。自治体や企業、市中心部でマーケットイベントを定期開催する団体等の関係者が関心を寄せていました。10月27日には「山陽新聞社感謝デー さん太マルシェ」に旭川荘の店を初出店。同社さん太広場で、荘内10施設の製品約80種類を販売しました。製品を知ってもらおう新たな試みとして、「ぎおんの杜から」のロゴシールを張った大小紙袋を手作りし、購入者には試供品(おから茶1包)や、「ぎおんの杜から」のU



「さん太マルシェ」の旭川荘ブース

RLをプリントしたサンクスカードを配布。温かいお茶から試飲、各種クッキーの試食も買い物の心をつかみ、製品全体の売り上げに大きく貢献しました。店頭で配布したカタログ「ぎおんの杜から」も好評。カタログを手にした女性客は「安くて素敵な製品がこんなにあるとは知らなかった。(今回販売のなかった)結び織マットの実物もぜひ見たい」と話していました。



写真講座で撮影技術を学ぶ製品担当者ら

既存のイベントでも製品PRへ向けて広がりを見せています。3回目を迎えた「ちよつと見て旭川荘(道の駅・黒井山グリーンパーク、9月27日〜10月10日)」は、これまでの備前、ひらた支部、祇園本部の各施設に加え、今年から備中支部の松山ワークセンター、

小幡篤志企画広報室長は「多くの方に製品を評価してもらえた。これからも施設間の連携をとりながら、あらゆる機会・媒体を使って製品や荘の取り組みを伝えていきたい」と話しています。

★記事中のイベントの様子はサイト「ぎおんの杜から」(<http://asahigawasou.com/>)のブログで紹介しています。

「介護の日」

職員がやりがいを語る

11月11日は、国が定める「介護の日」。岡山県のPR活動に協力するため、竜ノ口寮の介護職員がメディアの取材を受けました。

介護福祉士の若本幸希さんは、就職して2年目。中学生の頃にお祖父さんが寝たきりとなって、手を握る以外に自分に何か出来ないかと医療福祉職に興味を持ったそうです。職員となった今は利用者とのやりとりが一番楽しく、趣味



利用者とともに取材を受ける若本さん(中央奥)

活動に打ち込む利用者のキラキラ輝く表情に感動したり、「介護が上手だね」と声をかけてもらったりする中で、苦勞を吹き飛ばすやりがいを感ずるといいます。自分は仕事に向いていないのではないかと悩むこともありましたが、そんな時も利用者さんの何気ない言葉や気遣いに励まされるそうです。今後は、一を聞いて十を配慮する気づきの力と、常に的確に行動できる判断力を身につけて、利用者から信頼されるスタッフを目指したい、と目を輝かせながら語ってくれました。

利用者の浜崎さんも「明るく朗らかに介護してくれる、よく気がつくし言葉も分かりやすい」と若本さんを褒めていました。

高齢化や障害の重度化・重複化が進む中で、旭川荘でも介護職員のニーズが増大しています。興味をお持ちいただいた方は、旭川荘ホームページ等で採用情報をご確認ください。

一風堂ラーメン ボランティア

全国的にも有名なラーメン店「一風堂」の皆さんによる「ラーメンボランティア」が10月2日、いづみ寮など南地区5施設を対象に行われました。

岡山、倉敷両店の店長さんはじめ、元氣なスタッフの方々計5人が来荘。昼食に約300人分のラーメンを手際よく作り、振る舞ってくれました。

普段食べ慣れないとんこつラーメンということで、苦手な利用者もいるのではと心配しましたが、みんな熱々のラーメンを「おいしい、おいしい」と夢中で食べ、いづみ寮では開所以来初となる「食べ残しゼロ」という奇跡的な記録を生み出しました。

このほか、餃

子&麵作り体験もあり、利用者

者がスタッフの指導を受け

ながら、餃子の皮で肉あんを

包み、パスタマシンで麵を作る

作業を楽しみました。

元氣いっぱい

に活き活きと働く一風堂の皆さんの温かなもてなしに触れ、利用者、職員共により経験となりました。ありがとうございました。



手際よくラーメンを作る一風堂スタッフ

全国障害者 スポーツ大会で優勝

第13回全国障害者スポーツ大会「スポーツ祭東京2013」が10月12日から14日まで東京都で開催され、旭川荘の利用者も大いに活躍しました。

ぎおんハイツの縄田聖矢さんは、卓球(知的障害少年男子)で見事に2年連続優勝を果たしました。縄田さんは、荘内の卓球クラ



卓球で優勝した縄田さん

ブのほか地域のクラブにも参加し、練習に励んだ成果を發揮しました。

また、ソフトボール(知的障害者)決勝で岡山が地元・東京に9-0で大勝し、2年連続7度目の優勝を飾りました。チームには望の丘地域生活ホームの川上桂二さん、かわかみ療護園職員の鹿島義雄さんが参加し、優勝に貢献しました。



優勝したソフトボール岡山県選抜チーム

環境福祉フェア 開催

西大寺地域のにぎわい創出を目的とした旭川荘の地域交流イベント「環境福祉フェア」が10月26日、結びの杜(岡山市東区西大寺浜)で開催されました。今年で6回目となる恒例のイベントとあって、開幕と同時に多くの家族連れが来場。子どもを対象にしたお菓子のプレゼントや、職員が持ち寄った日用品のバザー、うどんや焼き芋、綿菓子などの出店が人気を集めました。



来場者の人気を集めた日用品バザー

企画もあり、来場者の目を引いていました。

大規模地震想定し 防災訓練

旭川荘祇園地区で9月26日、大規模地震防災総合訓練が行われ、職員らが避難方法や救護、情報伝達などの流れを確認しました。



「救護所」での訓練

「南海トラフを震源とするマグニチュード9.0の地震が発生。岡山県内では最大震度6強を観測した」との想定で実施。緊急地震速報を受けて各施設では、職員や利用者が落下物を避けて机の下に隠れるなどの退避行動をとり、火災の発生への対処、被害状況の把握、安全の確保…といった一連の初期対応をチェック。無線で「災害対策本部」へ情報を伝えました。また、むすびの園といづみ寮前庭に設置された「救護所」では、担架や車いすで運び込まれた「傷病者」に医師が治療の優先順位を決める「トリアージ」を行うなど、緊迫感あふれる訓練が繰り広げられました。

富士労連より福祉車両寄贈 真庭療育センターへ

富士重工関連労働組合連合会(富士労連)より10月8日、スバル自動車の福祉車両1台を寄贈していただきました。車は来年春季に開所する真庭療育センターで利用者の送迎等に活用します。

寄贈式で富士労連の松本伸事務局長が「『社会のために役立つことをしたい』という従業員の思いが詰まった車です」と挨拶。スバル販売労働組合岡山スバル支部の櫻井信幸執行委員長から末光茂理事長へゴールドキーが贈られました。



ゴールドキーを受け取る末光理事長(左)

末光理事長は「富士労連の皆さんの温かい気持ちに感謝し、障害者のために大切に使いまします」とお礼を述べました。

富士労連は1985年から全国の福祉施設へ車を贈る取り組みを続けており、今年で累計140台を寄贈。岡山県内は今回が初めてです。



後部のスロープを使って車いすのまま乗降可能

評議員会・ 理事会報告

10月18日、平成25年度第2回評議員会・理事会が岡山プラザホテルにて開催されました。付議案件は、平成25年度主要事業の状況、平成25年度第2次資金収支補正予算など6議案と報告事項1件で、いずれの案件も原案どおり承認されました。

185号(1月1日発行)より旭川荘がよりをリニューアルします。ご期待ください!

旭川荘ごよみ SCHEDULE CALENDAR

11月

- 2日 やまびこまつり ……南地区
- 2013ひらた旭川荘秋まつり ……ひらた地区
- 4日 星野仙一杯争奪 第3回西日本肢体不自由児
ティールボール交歓大会 ……旭川療育園・睦学園
- 5日 重症心身障害児者セミナー(地域生活モデル事業)
……………南愛媛療育センター
- 6日～8日 秋祭り ……旭川児童院
- 8日 クロイツァーの弾いたピアノ記念コンサート…旭川荘厚生専門学院
- 9日 学園祭 ……旭川学園
- 百合樹祭 ……愛育寮
- 10日 旭川荘創立記念日(永年勤続表彰)
- 13日 くわのみどりの家講座作品展 ……くわのみどりの家
- 14日 春花壇つくり……………バンビの家
- 18日 通園センター秋の交流会 ……児童院通園センター・
いんべ通園センター・ひらた通園センター・松山通園センター
- 18日～22日 第28回写真・作品展(川崎病院) ……旭川荘関係施設
- 21日 第43回ふれあい事業健康づくり講演会…北宇和病院
- 29日 クリスマスイルミネーション開始 ……旭川児童院

12月

- 1日 学院説明会 ……旭川荘厚生専門学院
- クリスマスイルミネーション開始 ……結びの杜
- 7日 南愛媛病院・南愛媛療育センター開設10周年記念式典
……………南愛媛病院・南愛媛療育センター
- 12日～13日 第31回旭川荘医療福祉学会 ……旭川荘